日本列島情報ネット 西日本版

広島支局
〒730-0051
広島市中区大手町5丁目1-1
大手町ファーストビル5F
電話・082(241)3592
FAX・082(241)3597

福岡支局
〒812-0011
福岡市博多区博多駅前
3-28-12
電話・092(451)3321
FAX・092(451)3387

共和工業所

SSAB社の耐摩耗肉盛鋼板

加工販売を本格化

国内初

産業機械製作、鋼材加工販売の共和工業所（本社・岡山県倉敷市、社長・石本隆一氏）は欧州特殊鋼大手のスウェーデンスティール社（SSAB）製品の厚板表面に特殊金属を肉盛り加工した耐摩耗肉盛鋼板「DUROXITE（デュロキサイト）」の加工販売を本格化した。国内初の取り扱いで、直近1年間をかけて切断、曲げ、溶接などの試験加工で鋼板の加工性や性質の把握に努めてきた。このデータ蓄積を生かしながら今後はセメント系プラントや穀物搬送設備、重機のバケットなど、構造物の摩耗が激しい部分での提案・採用を進め、市場開拓を図る。

デュロキサイトのテスト加工品

デュロキサイトは軟鋼や耐摩耗鋼板「HARDOX（ハルドックス）」がベースとなる厚板に、クロムや特殊合金を肉盛りすることで、高い耐摩耗性を実現した鋼板。ハルドックスに比べ耐摩耗性能を上回っている。同社ではデュロキサイトの4つのグレードのうち、低グレード相当の「100」の5×10サイズを十数枚単位で在庫する。母材の軟鋼と肉盛り部分はそれぞれ6ミリ厚。価格面は国内で流通する類似品と同水準。中国国内で製造しており、デリバリーは1カ月程度を要する。デュロキサイトに適した需要先は未知数として「顧客とともに用途開発していきたい」（石本社長）。すべり摩耗の特性を生かして、ハルドックス製の構造物の一部で、より耐久・耐摩耗が要求される部材への採用も働きかけていく。

同社は2009年にSSAB社との直取引を開始、12年に認定工場（ウェアパーツサプライヤー）となった。この10年間は環境展などへの出展など積極露出で製品認知度を上げると同時に、SSAB製品の加工販売を手掛ける共和工業所の業態への周知をユーザーに図ってきた。ゼロベースからの開拓で、足元の年間加工販売量は300トン。今後3カ年で500トンまでの上積みを目指し、将来的には売上全体に占める25%程度に高める方針。

2019年8月期業績は本業である産業機械製作で広範囲の顧客からのスポット受注が業績を押し上げ、リーマンショック前の水準の売上高14億円に着地する見通し。

九州地区の有力コイルセンターで建築板金資材の加工・販売なども手掛ける信和鋼板（本社・北九州市、社長・隈部佳克氏）は1日、本社工場会議室で全社員約100名が出席する「第51期始業式」＝写真＝を開催した。

冒頭、隈部社長は前期の決算について「売上高は147億5320万円（前々期比5・3%増）、営業利益は1億7886万円（同9・4%減）、経常利益は2億8457万円（同1・7%減）でした。運賃や副資材のコストが大幅に上昇し、利益を圧迫した結果、

筑後鉄鋼販組が総会

新理事長に待鳥氏（丸久鋼材社長）

筑後鉄鋼販売業組合（理事長・木村洋明富士商会社長、会員9社）は6月28日、福岡県久留米市の「梅の花久留米店」で令和元年度総会を開催した。任期満了に伴う役員改選を行い、新理事長に待鳥寿丸久鋼材社長、副理事長に野田康友野田清商店社長と、鶴久通浩アサヒ鉄鋼販売久留米店次長を選出した。任期は3年間。

木村理事長は、5月から自社でミルシートの有料化に取り組んでいることを明らかにした上で「我々を取り巻く環境は、年々厳しく

なっ　に利　はな　有料　も検　か」　待

西日本豪雨から1年

「こっこー」の取り組み

呉市の災害廃棄物処理に全力

昨年7月に発生した西日本豪雨の影響で広島県呉地区は土砂災害や床上浸水で多大な被害を受けた。インフラ面では広島方面からの陸路・鉄路が寸断し大渋滞が起こり、呉地区への鋼材や加工製品の出入りが困難な状況が発生。市内を中心とした断水に伴い、市民生活・経済活動にも長期間の影響が表れ、不便な生活を強いられた。被災地・呉市に本社を置く総合リサイクル企業・こっこーは自社の従業員が被災する中、災害発生直後から災害廃棄物の処理に取り

共に、一日も早い復興をお祈り申し上げたい。当社従業員においても、約10名程が家屋の床上浸水や土砂災害などの被害を受けた。物流が滞り仕事にならないため、被災を免れた社員は自発的に被災した社員の家に向かい、土砂のかき出しや片づけを手伝っていた。作業で真っ黒になりながら互いに励まし合う姿を見て、この社員達がいれば、間違いなく会社は伸びるとの自信を持たせてくれた」

――会社の被害は。

「会社は7月単体で売上高は20%減。1週間程度の断水は発生したものの、特段に設備の浸水被害などはなく持ち直したが、私自身の計画性のなさを反省。有事の際に売上や今期業績の心配事が頭をよぎって右往左往していたのが実情だ。当社では被災当時を振り返りながら、何が起きて何が必要

り組んでいきたい」

――災害廃棄物への取り組みは。

「豪雨災害発生当初から県市の要請を受けて、広島県資源循環協会会員として呉市の災害廃棄物の仮置き場でのボランティアを地元復興の一環として開始した。その後は受入管理業務として業務受託した。当初は廃棄物受け入れと手選別のみだったが、今年1月からは、入札により処理業務全般に取り組んでいる。呉市からは想定数量約13万トン分の災害廃棄物処理を受託しており、今年12月末までの期間での処理完遂に努めている」

――現場の状況は。

「夏場に丸一日、手選別の

入ってくる　てひどい臭　も力がいる　々な災害ご　用品はもち　出の写真な　の方々の幸　ことが容易　心苦しい気　悪な環境下　する社員に　当初は新た　棄物の山を　終　と　望　が　に　ことで作業　ている」　――今回　すれば。　「今まで　なかったが　に携わる　となった。